

中間試験返却の前に、

特別演習 (答案提出):

$x = \sqrt{10 + \sqrt{2}} \in \overline{Q}$  について、

(1)  $x$  の  $Q$  上の最小多項式

$f(X) := \text{Irr}(x; Q)(X) \in Q[X]$  を求めよ。

(2)  $x$  の  $Q$  上の共役をすべて挙げよ。

(3)  $K := Q(x)$  の  $Q$  上の正規閉包  $\tilde{K}$ 、

及びその拡大次数  $[\tilde{K} : Q]$  を求めよ。

## 中間試験総評:

- 丁寧に書け  
(答案は人に読まれる / 読ませるもの)
- 日本語として意味の通るように書け  
(答案は数式交じりの文章である)
- 論理の急所をしっかりと押さえて書け  
(突っ込みに答えることを書いておく)

## 体の拡大の理論としての Galois 理論

体拡大  $L/K$  の様子を、

自己同型群  $\text{Aut}(L/K)$  で統制する

**Galois 理論の基本定理**

||

**中間体と部分群との対応**

## 有限次代数拡大の基本的な不等式 (再掲)

$L/K$ : 有限次 (代数) 拡大

$K \subset L \subset \Omega$ : 代数閉体

$$\#\text{Aut}(L/K) \leq \#\text{Emb}_K(L, \Omega) \leq [L : K]$$

左の等号  $\iff L/K$ : 正規

右の等号  $\iff L/K$ : 分離

$\text{Aut}(L/K)$  が望む限り大きくなるのは、  
 $L/K$  が正規かつ分離的のとき

## 体の拡大の理論としての Galois 理論

“Galois 拡大” とは、

“ $\text{Aut}(L/K)$  が充分大きく、  
体拡大  $L/K$  を統制できる拡大”

実際の所、

$L/K$  が正規かつ分離的、

即ち、 $\#\text{Aut}(L/K) = [L : K]$  であることが、

**Galois 理論 (中間体と部分群との対応)**  
が機能するのに重要

## 体の拡大の理論としての Galois 理論

$L/K$  : 体の拡大

$$G := \text{Aut}(L/K) = \{\sigma \in \text{Aut}(L) \mid \sigma|_K = \text{id}\}$$

- $H \subset G$  : 部分群に対し、  
 $L^H := \{x \in L \mid \forall \sigma \in H : \sigma(x) = x\}$   
:  $H$  の**固定体 (fixed field)**
- $M$  :  $L/K$  の中間体に対し、  
 $\text{Aut}(L/M) = \{\sigma \in G \mid \forall x \in M : \sigma(x) = x\}$   
:  $L$  の  $M$  上の**自己同型群**

## 体の拡大の理論としての Galois 理論

自明に

$$\text{Aut}(L/L^H) \supset H, \quad L^{\text{Aut}(L/M)} \supset M$$

ここで = が成り立つか？

一般には成り立たないが、Galois 拡大なら OK

## 体の拡大の理論としての Galois 理論

自明に

$$\text{Aut}(L/L^H) \supset H, \quad L^{\text{Aut}(L/M)} \supset M$$

ここで = が成り立つか？

一般には成り立たないが、**Galois 拡大**なら OK



体の有限次拡大  $L/K$  が **Galois 拡大**

$\Leftrightarrow$

$$L^{\text{Aut}(L/K)} = K$$

$\Leftrightarrow$

$$\#\text{Aut}(L/K) = [L : K]$$

$\Leftrightarrow$

$L/K$  : 正規拡大 かつ 分離拡大

この時、 $\text{Aut}(L/K) = \text{Gal}(L/K)$  と書き、  
 $L/K$  の **Galois 群** と呼ぶ。

## Galois 理論の基本定理

$L/K$ : **Galois 拡大**、 $G := \text{Gal}(L/K)$ : **Galois 群**

$\mathcal{H}_G := \{H \mid G \text{ の部分群}\}$

$\mathcal{M}_{L/K} := \{M \mid L/K \text{ の中間体}\}$

$$\begin{array}{ccc} & \Phi & \\ & M \longmapsto & \text{Aut}(L/M) \\ & \longrightarrow & \\ \mathcal{M}_{L/K} & & \mathcal{H}_G \\ & \longleftarrow & \\ & L^H \longleftarrow & H \\ & \Psi & \end{array}$$

## Galois 理論の基本定理

- $\Phi, \Psi$  : 共に全単射で、互いに逆写像  
( $\Phi \circ \Psi = \text{id}_{\mathcal{H}_G}, \Psi \circ \Phi = \text{id}_{\mathcal{M}_{L/K}}$ )
- $\Phi, \Psi$  : 共に包含に関して順序逆同型  
( $H_i \rightsquigarrow M_i$  のとき、 $H_1 \subset H_2 \Leftrightarrow M_1 \supset M_2$ )

“中間体と部分群とが一対一対応”

**Galois 対応**  
**(Galois correspondence)**